






ふるさと岩手応援寄付

～令和２年度事業実施状況のお知らせ～








御挨拶

令和2年度寄附者の皆様

この度は、本県へ温かい御寄附を賜り誠にありがとうございました。
お陰様で、令和2年度は1,420件、90,854,821円もの御支援をいただきました。
皆様の「岩手県を応援したい！」というお気持ちを踏まえ、お選びいただいた事業において、大切に活用させていただきました。
本書では寄附金を活用して実施した事業の実施状況をまとめましたので、御一読いただければ幸いです。

令和3年3月には、東日本大震災津波から10年を経過しました。これまでの間、皆様からは温かい御支援や励ましをいただき、本当にありがとうございました。

これからも、東日本大震災津波や平成28年台風第10号大雨災害からの復興をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策など、皆様の応援に応えられる県政を推進して参ります。
今後とも、御支援のほどよろしくお願いいたします。

令和3年12月
岩手県

岩手との「つながり」を感じていただくために

ふるさと岩手応援寄付のほか、岩手県では、皆様に岩手との「つながり」を感じていただくために、次のような取組を進めています。ご興味がありましたら、ぜひQRコードからご覧いただけると幸いです。

【Facebook「いわてのわ」】
「いわてが好き」「いわてのことをもっと知りたい」といった岩手に関心のある方々に向けて情報をお届けしたいと思い、Fcebookページ「いわてのわ」を運営しています。

「いわてのわ」



【遠恋複業課】
岩手と離れて暮らしながらも、岩手でスキルを生かした複業をしたい！と考えている、複業を通じて岩手とお付き合いしてくださる方を募集しています。

「遠恋複業課」

遠恋複業課

目　次

1.「いわての学び希望基金」に活用

令和2年度活用実績　24,583,410円

東日本大震災津波により被災した子どもたちが、自らの希望に沿った学校を卒業し、社会人として独り立ちするまで、息の長い支援を行うことを目的としており、いただいた御寄附は次のような修学の支援、教育の充実を図るための事業に活用しました。

○奨学金給付事業
震災により親を失った児童・生徒等に対して奨学金を給付し、「暮らし」と「学び」の支援を行いました。

○教科書購入費等給付事業
被災した高校生に対し、入学一時金や教科書購入費、修学旅行費、高校等入学一時金などを支援しました。

○被災地生徒運動部活動支援事業
運動部活動において、被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会に参加するために必要な交通費等を支援しました。

○被災地児童生徒文化活動支援事業
文化活動において、被災した小・中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会やセミナーに参加するために必要な交通費等を支援しました。

○被災地通学支援事業費補助
被災した生徒等に対する通学の支援を図るため、通学定期券購入費の助成を行いました。


授業風景


文化祭の様子


東日本大震災津波伝承館での学習風景

担当：　復興防災部復興推進課推進担当　電話：019-629-6935

2.「東日本大震災津波伝承館の運営」に活用

令和2年度活用実績　3,684,511円

東日本大震災津波伝承館では「命を守り、海と大地と共に生きる」を展示テーマに、東日本大震災津波の悲しみを二度とくり返さないために、津波の映像や写真、被災者の声や被災物の展示を通して、震災の事実と教訓を国内外及び次世代に伝承しています。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○企画展示の開催
発災から復興に至るまでの状況や、防災・減災に関する情報など常設展示の内容を補う企画展示を開催し、来館者に「学びの場」を提供しました。


企画展示の様子

○震災学習プログラム教材の作成・配付
震災津波の体験、記憶がない生徒にも展示内容の理解が深まるよう、震災津波伝承ノート(中高生用)を作成・配付しました。


震災津波伝承ノートを活用した見学の様子

担当：東日本大震災津波伝承館　電話：0192-47-4455

3.「いわて子どもの森遊具充実」に活用

令和2年度活用実績　821,282円

いわて子どもの森は、自然の中でのびのびと自由に遊びやふれあい体験ができる全県的な子どもの健全育成の拠点として、平成15年5月5日に開館した大型児童館です。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇遊具等の修繕
　老朽化した設備の修繕を行い、安心して利用できる環境を整備することができました。



絵本の部屋ヨムヨム

〇ワークショップの実施
　豊かな自然環境を生かした、新たなワークショップを実施することができました。



森のシアター

担当：保健福祉部子ども子育て支援室子ども家庭担当　電話：019-629-5463

4.「子どもの居場所づくり応援」に活用

令和2年度活用実績　4,173,273円

子どもが一人でも安心して過ごすことができ、食事や交流、活動を通じて様々なことを学ぶことができる子ども食堂や学習支援などを行う「子どもの居場所」の立ち上げの支援や、「貧困の連鎖」を防止するための学習会・個別指導等を実施しており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇子どもの居場所づくり推進事業費補助
（子ども子育て支援室）
　子ども食堂や学習支援などを行う「子どもの居場所」の新規開設や機能強化を行う団体等に対し、設備改修や調理器具の購入などの経費を市町村と連携して支援しました。
　また、「子どもの居場所ネットワークいわて」を通じて「子どもの居場所」の新規開設や運営継続等に関する支援を行いました。



食を通じた見守りや交流の実施

〇子どもの学習・生活支援事業
（地域福祉課）
　貧困による学習機会の格差を解消するため、生活に困窮する世帯等の子どもを対象に学習会及び個別指導を実施し、自主学習への助言指導、進路相談・悩み相談等に対応しました。
　また、学習支援に加え、生活習慣・育成環境を改善する支援を行うことにより、「子どもを入り口とした世帯全体への支援」を行いました。



学習会の様子

担当：保健福祉部子ども子育て支援室次世代育成担当　電話：019-629-5461
　　　保健福祉部地域福祉課指導生保担当　　　　　　電話：019-629-5425

5.「動物愛護・適正飼養の普及啓発」に活用

令和2年度活用実績　2,314,251円

動物愛護関連行事を開催し、動物愛護思想の普及啓発に取り組むとともに、動物愛護団体等と連携した譲渡会の開催など、積極的な譲渡の取組や負傷した動物の治療に活用しました。

○動物愛護推進事業費・狂犬病予防費

動物愛護週間行事

動物愛護思想や適正飼養の関心と理解を深め、より多くの県民に対する普及啓発を行うため動物愛護週間行事を開催しました。動物を通じて命の大切さや共につながり支えあう心の学びにつながっています。



動物愛護展示会の様子

動物愛護団体等と連携した譲渡会

保健所に引き取られたり、飼い主に返還されなかった動物の譲渡会を動物愛護団体等と連携し定期的に開催しています。新しい飼い主の方への譲渡により、殺処分の減少につながっています。



保護猫の譲渡会の様子

担当：環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心担当　電話：019-629-5323

6.「子どもたちの夢を応援！県立学校の環境充実」に活用

令和2年度活用実績　753,242円

岩手の未来を担う子どもたちが自身の夢や希望に向かって勉強や部活動に取り組むため、県立学校の生徒が授業で使用する設備や部活動で使用する備品の整備など、教育環境の充実を図る事業を行っており、いただいた御寄付は次のような事業に活用しました。

○産業教育設備整備費

高等学校の産業教育に必要な実験実習設備等を整備し、農業・工業・商業・水産業その他の産業の即戦力となる人材育成につながっています。



授業風景

○部活動設備整備費

部活動に必要な設備を整備し、スポーツ・文化・科学・芸術等の楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を自ら創造する活動の場になっています。



活動風景

担当：教育企画室施設整備管財担当　電話：019-629-6152

7.「岩手県立大学未来創造応援プロジェクト」に活用

令和2年度活用実績　250,496円

岩手県立大学では、地域に根差した高等教育機関としての役割を充実・強化し、地域に貢献する取組を実践しており、各市町村における地方創生の取組をはじめ地域の課題解決や産業振興に向けた取組など、岩手県立大学が県民のシンクタンクとして地域の未来創造に貢献する取組を推進するための事業に活用しました。

〇公立大学法人岩手県立大学運営費交付金

岩手県立大学では、県内のものづくり産業の生産性・付加価値向上に繋がる産学共同研究や高度技術者の育成を推進するため「いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター」（通称：iーMOS）を設置・運営するとともに、地域貢献を目的とする研究を推進し、当該研究の成果普及を促進するため「地域政策研究センター」を設置・運営し、県民が抱える課題に対応した研究や産学官連携の取組を推進しており、県は運営費交付金でこれらの取組を支援しました。


岩手県立大学 滝沢キャンパス


iーMOS 高度技術者養成講習会の様子

担当：ふるさと振興部学事振興課学事企画担当　電話：019-629-5045

8.「グローバル人材の育成」に活用

令和2年度活用実績　355,305円

国際的な視野を持って地域で活躍する人材の育成や県内定着を進めるため、産学官が一体となった「いわてグローカル人材育成推進協議会」で実施する外国人留学生等の県内就職支援や、県内企業との交流機会の創出のための事業に活用しました。

〇グローバル人材を対象としたキャリアフェア

外国人留学生等の県内での就職・定着を支援することを目的として、「グローバルキャリアフェア」を開催しました。


キャリアフェアの様子

〇グローバル人材と県内企業とのワークショップ

海外に関心の高い日本人学生や外国人留学生等と県内企業との「つながり」の場を創出し、相互の理解を深めるためのワークショップを開催しました。


ワークショップの様子

担当：ふるさと振興部国際室　電話：019-629-5765

9.「三陸鉄道の支援」に活用

令和２年度活用実績　8,950,489円

三陸鉄道は、令和元年10月の台風19号の災害の影響により甚大な被害を受け、一時約7割の区間が運休となり、令和2年3月20日に全線運行再開したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により利用客が大幅に減少しており、頂いた御寄附は利用促進等のための事業に活用しました。

○利用者補助
期間限定企画きっぷや団体利用者補助事業への支援等により、個人客だけではなく団体客等、できるだけ多くのお客様にご乗車いただけるよう利用者補助事業を実施しました。



唐丹ー吉浜間

○企画列車運行支援事業
こたつ列車・洋風こたつ列車の運行支援、かいけつゾロリ列車車両へのラッピング等への支援により、三陸鉄道のイメージや商品力向上のための事業を実施しました。



こたつ列車のなもみガイド

担当：ふるさと振興部交通政策室地域交通担当　電話：019-629-5206

10.「災害復旧等対策」に活用

令和２年度活用実績　8,653,017円

本県に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復旧復興に向けた取組として、陸前高田市の震災遺構（旧気仙中学校）の内部に立入可能な施設とするための改修費用に活用しました。

○震災遺構（旧気仙中学校）全景



震災遺構として建物全体を保存

○震災遺構（旧気仙中学校）内部の様子



立入防止柵により見学者の通路と安全を確保

担当：県土整備部都市計画課計画整備担当　電話：019-629-5890

11.「いわて産業人材奨学金返還支援基金」に活用

令和2年度活用実績　846,733円

本県の産業の発展と県内企業等の将来の技術力・開発力向上を担う産業人材を確保し、地域産業の高度化と持続的な発展を推進していくため、学生が大学などを卒業後、または既卒者がU・Iターンを希望し、県内企業に一定期間就業した場合に奨学金の返還支援を行っており、いただいた寄附を助成金の一部として活用しています。

○(独法）日本学生支援機構の第一種及び第二種奨学金の貸与を受けている支援対象者に対し、貸与金額の１/２（最大250万円）まで助成しています。



○支援対象者の生活へのご負担を少しでも軽減するため、就業１年目から毎月の奨学金返還額と同額を助成しています。



担当：商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室　電話：019-629-5551

12.「伝統工芸産業、漆産業、アパレル産業支援」に活用

令和2年度活用実績　655,092円

本県地場産品事業者の経営力向上を図るため、自社商品の開発支援やICTやIoT等の新技術導入支援に取り組みました。いただいた御寄付は次のような事業に活用しました。

○自社商品開発支援
自社商品の開発を支援するとともに、商品発表会や受注販売会の開催を通じて、製販一体の新業態に取り組む事業者をリーディング企業として支援しました。


新商品発表会の様子

○縫製事業者への新技術導入支援
ICTやIoT等の新技術導入に係る研修会を開催し、生産の自動化やデジタル化を促進し、縫製事業者の生産性向上を支援しました。


新技術導入研修会の様子

担当：商工労働観光部産業経済交流課　電話：019-629-5536

13.「いわての世界遺産保存と活用」に活用

令和2年度活用実績　213,608円

岩手県内には、「平泉」「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」の3つの世界遺産があります。これらを人類共通の宝として未来に継承していくことを目的に、世界遺産を通じた教育活動や世界遺産の保存管理の取組を推進する事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○世界遺産出前授業
　地域の歴史文化に理解と愛着を持った人材を育成し、世界遺産を人類共通の宝として未来に継承していくため、県内の児童・生徒に対し、世界遺産の価値を伝える出前授業を行いました。


授業の様子

○世界遺産パネル巡回展
　県内の世界遺産の理解を深めてもらうため、世界遺産の価値等をわかりやすく伝えるパネル展示や、展示解説会を実施しました。


解説会の様子

担当：文化スポーツ部文化振興課世界遺産担当　電話：019-629-6486

14.「海洋ごみ対策」に活用

令和2年度活用実績　1,786,646円

　近年、海洋に流出するプラスチックごみなどによる地球規模での環境汚染が懸念されており、海岸に漂着したごみの回収・処理やモニタリング調査を行っているところです。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○河川海岸等維持修繕費
　海岸における良好な環境を保全するため、海岸に漂着したごみの回収・処理やモニタリング調査を行いました。


漂着状況例


漂着ごみ例①


漂着ごみ例②

担当：県土整備部河川課河川海岸担当　電話：019-629-5907

15.「海岸環境整備事業」に活用

令和2年度活用実績　273,608円

東日本大震災津波や地盤沈下により砂浜が消失した根浜海岸において、平成30年度から砂浜再生事業による養浜工事を進め、令和3年3月31日に砂浜の一般開放を行いました。いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○海岸調査費

砂浜の一般開放に向けたモニタリング等を行いました。
令和３年３月31日には砂浜の一般開放が行われ、令和３年７月には海開きも実施され、砂浜を利用する多くの方々で賑わいました。


養浜前の根浜海岸


養浜後の根浜海岸


多くの海水浴客で賑わう様子（R3.7）

担当：県土整備部河川課河川海岸担当　電話：019-629-5907

16.「いわて社会貢献・復興活動支援基金」に活用

令和2年度活用実績　169,858円

復興支援活動及び地域課題解決に取り組むNPO等への支援として、NPO等の運営基盤を強化することを目的とした事業の経費として活用しており、いただいた寄附は次のような事業に活用しました。

○事業型ＮＰＯ育成事業

復興支援などを活動目的とするＮＰＯ等が目的達成まで安定的な運営ができるよう、認定ＮＰＯ法人制度の紹介や、資金調達や事業計画の見直しについて各種研修を行いました。


組織マネジメント研修風景

○ＮＰＯ等基盤強化事業

県内のＮＰＯが実施する地域課題解決の活動への支援として、文化芸術による震災の記憶風化防止など、協働の取組みに対し補助金を支給しました。


補助金を活用して実施される事業の様子

担当：環境生活部若者女性協働推進室　電話：019-629-5199

17. 「ILCプロジェクト」に活用

令和2年度活用実績　510,208円

国際協力で建設される世界最先端の研究施設「国際リニアコライダー（ILC）」の実現に向けて、国内外への情報発信、建設候補地として必要となる受入環境整備に向けた調査検討や県内企業の加速器関連産業への参入促進、人材育成の取組など、積極的な活動を展開するため、いただいた寄付は次のような事業に活用しました。

〇加速器関連産業の振興
　専門家の企業訪問によるニーズと技術のマッチングやオンライン方式での技術セミナー開催等、県内企業の技術力向上や加速器関連産業への参入及び受注の促進に取り組みました。



「ILC技術セミナー」の開催

〇未来のＩＬＣを担う人材の育成
　ＩＬＣ推進モデル校の取組をはじめ、科学・工学コンテストの開催、先端研究施設派遣研修など、高校生を対象とした人材育成に取り組みました。


先端研究施設派遣研修（KamLAND）

担当：ILC推進局事業推進課　電話：019-629-5203

18.「北上川バレープロジェクト」に活用

令和2年度活用実績　123,608円

北上川流域において自動車や半導体関連産業を中心とした産業集積が進み、新たな雇用の創出が見込まれることを生かし、働きやすく、暮らしやすい、21世紀にふさわしい新しい時代を切り拓く先行モデルとなるゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇北上川バレープロジェクト　シンポジウムの開催
　プロジェクトの取組方向を関係機関が共有するとともに、北上川バレーが持つ魅力やポテンシャルを広く発信するシンポジウムを、オンラインも活用しながら開催しました。

〇「働きやすく、暮らしやすい」エリアの実現に向けた取組の推進
　エリア内の16市町とともに、地域課題の意見交換や先進事例の共有等を行いながら、ＡＩやＩｏＴなどの先端技術を活用した「働きやすく、暮らしやすい」エリアの実現に向けた手法等の研究を進めました。


シンポジウムの開催


市町との研究会の実施

担当：ふるさと振興部地域振興室地域振興担当　電話：019-629-5184

19.「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」に活用

令和2年度活用実績　142,783円

「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」は、県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展する三陸ゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○三陸防災復興ゾーンプロジェクトの推進
　継続した三陸振興を図るため、沿岸地域の副首長などを構成員とする「三陸振興協議会」において、今後の三陸振興の在り方について議論しました。

○沿岸地域の情報発信
　沿岸地域において展開する県や市町村、団体等の事業について、公式ホームページの構築や広報媒体の作成を通じて、一体的な情報発信を行いました。

○公式ホームページの構築
　沿岸地域のイベントカレンダーや市町村紹介ページの設定に加え、SNSと連携した情報発信に取り組みました。

○広報媒体の作成
　沿岸地域の情報を盛り込んだ冊子「つながる三陸パンフレット」を2回発行し、震災伝承施設の活用促進や交流拡大に取り組みました。





（夏・秋号）



（冬・春号）



担当：ふるさと振興部 県北・沿岸振興室沿岸振興担当　電話：019-629-6222

20.「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」に活用

令和2年度活用実績　123,608円

県北圏域をはじめとする北いわての持つポテンシャルを最大限に発揮させる地域振興を図るとともに、人口減少と高齢化、環境問題に対応する社会づくりを一体的に推進することで、あらゆる世代がいきいきと暮らし、持続的に発展する先進的なゾーンの創造を目指すための事業を行っており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

○北いわて未来戦略推進連絡会議の開催
　市町村と県等で構成する「北いわて未来戦略推進連絡会議」を開催し、地域課題やゾーンプロジェクトの取組状況を共有するとともに、広域連携による施策の形成・展開に必要な対応を検討しました。

○北いわて産業・社会革新部門の設置
　令和元年４月に県と岩手県立大学との間で締結した「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」に基づき、大学内に「北いわて産業・社会革新部門」を共同で設置し、地域連携コーディネーターを配置するとともに、シンポジウムの開催や、地域課題解決モデル創出事業などを行いました。


北いわて未来戦略推進連絡会議の様子



連携協力協定式の様子



シンポジウムの様子
（オンライン配信）

担当：ふるさと振興部県北・沿岸振興室県北振興担当　電話：019-629-5211

Ⅱ　特定課題対応型寄附
「新型コロナウイルス感染症対策」に活用

令和2年度活用実績　24,341,017円

新型コロナウイルス感染症に医療機関の看護職員等が感染するなどして、医療機関の看護職員等が不足した場合に、他の医療機関が行う看護職員等の派遣に要する経費を負担することなどにより、医療機関の診療体制の維持及び看護職員等を確保することを目的としており、いただいた御寄附は次のような事業に活用しました。

〇新型コロナウイルス感染症対応看護職員等派遣支援事業

新型コロナウイルス感染症に看護職員等が感染するなどして、医療機関の看護職員等が不足した場合に、他の医療機関が看護職員等の派遣に要する経費を補助しました。

〇看護職員派遣調整事業

岩手県看護協会に事業を委託し、看護職員の派遣に協力する医療機関等の登録、派遣元・派遣先医療機関との看護職員の派遣調整などの業務を行いました。





新型コロナウイルス感染症対応業務の様子

担当：保健福祉部医療政策室医務担当　電話：019-629-5407

新型コロナウイルス感染症の拡大により経営に影響が生じている中小企業者の経営を支援するため、感染症対策に要する経費やテナントの家賃等について補助する事業の事業費の一部として活用しました。

〇地域企業家賃支援事業

市町村と連携し、売上が大幅に減少している中小企業者の家賃の一部を補助しました。

≪実績≫31市町村において、延べ7863事業者834,132千円を支給

〇地域企業感染症対策等支援事業

県内の商工会議所や商工会と連携し、中小企業者が、空気清浄機やアクリル板の設置等の感染症拡大防止対策を行う費用の一部を補助しました。

≪実績≫県内34商工団体において14,063事業者に対して1,396,149千円を支給

〇地域企業販売促進支援事業

中小企業者の売上確保や需要喚起等に向けて、県内の商工会議所や商工会が、テイクアウト応援プロジェクトの実施や管内事業者の商品を集約したカタログギフトの作成、イベントの開催等の実施に要する経費の一部を補助しました。

≪実績≫県内31商工団体において実施し、19,314千円



**盛岡商工会議所青年部による
テイクアウト応援プロジェクト**

担当：商工労働観光部経営支援課　電話：019-629-5547

Ⅲ　分野別型寄附の活用状況

令和２年度活用実績　2,079,276円



魅力あるふるさとづくりに活用

日常生活の利便性の向上により暮らしやすさを実現し、地域の魅力を高めるほか、地域コミュニティ活動への支援、公共交通の利用促進、豊かな環境の保全・形成など魅力あるまちづくりを進めるため、活力ある小集落の構築に向けた取組等に活用しました。



若者・女性の活躍支援に活用

若者たちが躍動する地域、女性が個性と能力を十分に発揮できる社会の形成を進めるため、若者の主体的な活動やネットワークづくりの支援のほか、いわて女性活躍企業等認定制度の普及など、女性が活躍できる環境づくりを進める取組等に活用しました。



文化芸術・スポーツ振興に活用

地域の伝統文化をはじめとする文化芸術やスポーツの振興を図り、心豊かでいきいきと暮らせる地域をつくるため、地域の文化芸術活動を支援する事業や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に多くの県民が参加できるよう取り組む事業に活用しました。



保健・医療・福祉充実に活用

医療、福祉・介護を充実していくとともに、健康と長生きのための取り組みを推進し、若者からお年寄りまで全ての人々が安心して暮らせる地域をつくるため、医師の確保を図るための取り組みや、がん対策を推進するための取組に活用しました。



ふるさとの未来を担う人づくりに活用

豊かなふるさとの将来を担う人づくりの推進や教育の振興を図り、地域の活性化を実現するため、県内ものづくり産業のほか、本県の特色ある産業・文化を支える人材の確保・育成に向けた取組等に活用しました



関係人口創出・拡大に活用

岩手への人の流れを創出し、強化し、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」を創出・拡大するため、いつでも、どこでも岩手とつながる環境の整備に向けた取組に活用しました。



いわてまるごと交流促進に活用

国内外からの観光誘客や岩手の地域資源を生かした観光地域づくり、農山漁村の交流体験やグリーン・ツーリズム、文化やスポーツ等を通じて、岩手と国内外の人々との交流が広がる地域づくりに向けた取組に活用しました。










≪問い合わせ先≫
岩手県ふるさと振興部地域振興室地域振興担当
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10−1
電話：019-629-5184 FAX：019-629-5254
岩手県ホームページ「ふるさと岩手応援寄付のお知らせ」